

〔家保のページ〕

大野呂牧場での取り組み

～公共育成牧場の管理技術向上を目指して～

真庭家畜保健衛生所

〈はじめに〉

昨今の厳しい経営状況により、酪農家のみなさんからは、「導入牛は高価になり、自家育成も忙しくてうまく管理できない、もっと省力化できたら・・・」といった声が聞かれます。

酪農家さんにとって、信頼出来る地域の育成牧場に預託することができれば、労力的負担を少なくして後継牛を確保することが出来ます。

こうした中、真庭市関にある大野呂育成牧場では、真庭家保はじめ、関係機関一体となって管理技術の向上を目指し、健康な後継牛づくりのために様々な取り組みをしていますので、その概要を報告します。

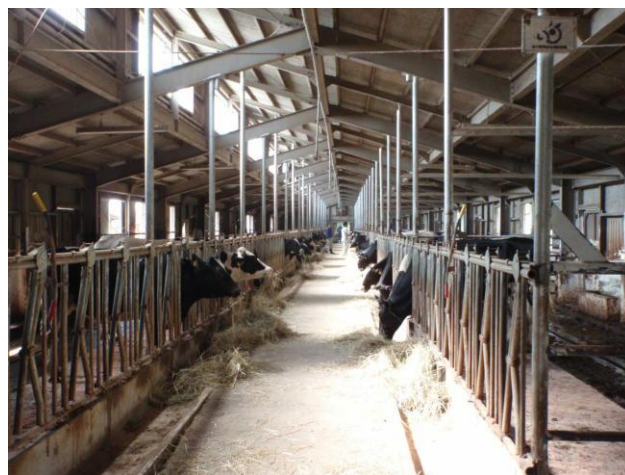
〈牧場の概要〉



大野呂牧場は、真庭市の南部に位置し、昭和54年に設立されました。草地面積は約45haで、うち約15haを放牧利用し、常時50～60頭の育成牛が預託飼育されています。(預託期間：約6ヶ月齢から22ヶ月齢まで。)真庭市((社)真庭市畜産公社)が運営主体で、周辺の酪農家と酪農協、共済、県民局等で運営検討委員会を組織して、関係機関で協力しながら運営しています。

〈指導内容〉

放牧衛生検査として、真庭家保、共済連



家畜診療所が中心となり、放牧牛が感染しやすいピロプラズマ病の検査・予防や、各種ワクチン接種指導、繁殖検診、そして3ヶ月に1回の体測を行い、育成牛の健康管理に努めています。



放牧衛生検査と繁殖検診の様子

〈過去の問題点と対策〉

平成18年度までは、月1回のピロプラズマ病検査を実施していましたが、寄生率は平均で26.5%、夏場では時に40%を超え、中には発症例もあり、多々治療しなければならぬ状況もありました。

この対策として、平成19年度から検査を月2回とし、外部寄生虫駆除薬によるダニの駆虫を開始しました。

岡山畜産便り 2010.10

この結果、平成 19 年度から今年度にかけて、寄生率は平均 10%以下まで減少し、発症もなくなりました（図 1）。また下牧後の聞き取りにおいても牛の状態は良好で、月 2 回の検査及び駆虫の効果が確認され、安定的な育成ができるようになりました。

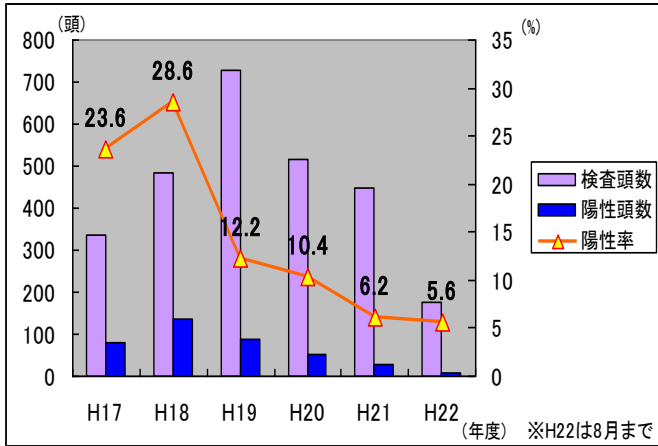


図 1. ピロプラズマ病検査結果の推移

同時に、繁殖検診も月 2 回実施し、平均初妊月齢 14 ヶ月齢を目標に取り組み、平成 19 年度からは徐々に改善され、平成 21 年度は 14.9 ヶ月まで改善されました。今後は妊娠・分娩月齢と種付け回数の低減を目標に取り組んでいきます。

年度	項目	入牧月齢	初回AI月齢	初妊月齢	AI回数	分娩予定月齢
H19		8.0	14.4	16.1	1.9	25.2
H20		7.6	14.5	15.7	1.8	25.2
H21		7.3	14.1	14.9	1.6	24.3

図 2. 繁殖成績の推移

また 3 ヶ月に 1 回実施している全頭体測では、結果を直ちに牧場管理者に通知し、特に発育状態の悪い牛についての個体管理を徹底するよう努めています。

〈今後の目標・改善点〉

- ① ピロプラズマ寄生率の低値維持。
- ② 体重測定は、正確な情報を確保し飼養管理を的確に実施するため、体重計の導入。

(現在推定尺を使用。)

- ③ 繁殖成績は、平均で妊娠 14 ヶ月齢以内、分娩 24 ヶ月齢以内を目指し、種付け回数を 1.4 回に低減する。また繁殖管理の徹底のためのコンピュータ、ソフトの導入。
- ④ 預託頭数の確保 (目標 80 頭)。
- ⑤ 草地の更新と使用方法の検討。

〈おわりに〉

数年間をかけ、関係機関の努力により、衛生面・繁殖面の改善ができたことで、今後の大野呂牧場にとって、良い見通しとなってきました。

酪農家が安心して牛を預けられ、余裕を持って楽しく牛飼いが出来るよう、真庭家保も衛生指導等に協力し、信頼できる牧場運営の一助となっていきたいと思っています。



みんなで待ってるよ〜！！

預託料：真庭市内：550円/日、市外：600円/日

その他詳しいお問い合わせは、

(社) 真庭市畜産公社事務局

真庭市役所落合支局総務振興課 まで

TEL:0867-52-1111

(真庭家畜保健衛生所)